

春日市 人口ビジョン

① 人口の将来展望のポイント

○人口減少・少子高齢化 ① 人口構造の変化 ② 出生率の伸び悩み	○働く場 ① 女性の潜在的な労働力 ② 高齢者の就労意欲
○転入・転出数の動向 ① ファミリー層の転入超過のピーク ② 若者の市外流出 ③ 高い定住意向 ④ 隣接する福岡市の影響	○地域社会と都市機能 ① 地区間における（年齢構成上の）差 ② 財政運営への影響 ③ 人口の増減と都市機能の関係

② 目指すべき施策の方向性

1. 子育て世代の負担を軽減し、子育て環境を充実させ、出生率の上昇を目指します。
2. ファミリー層の転入・定住を促進するため、教育施策の更なる充実を図ります。
3. 人口の流入を一定維持し、流出は抑制するために、良好な住環境の維持・向上を図ります。
4. まちの魅力を向上させ、居住地として選択されるまちづくりを進めます。
5. 将来を担う人材を育成し、若い世代の定着、転入の促進を図り、地域活性化を目指します。
6. 高齢者が健康でいきいきと活躍できるまちづくりを進めていきます。
7. 市民や地域との協働のまちづくりを推進するとともに、効果的で効率的な行政運営に取り組みます。

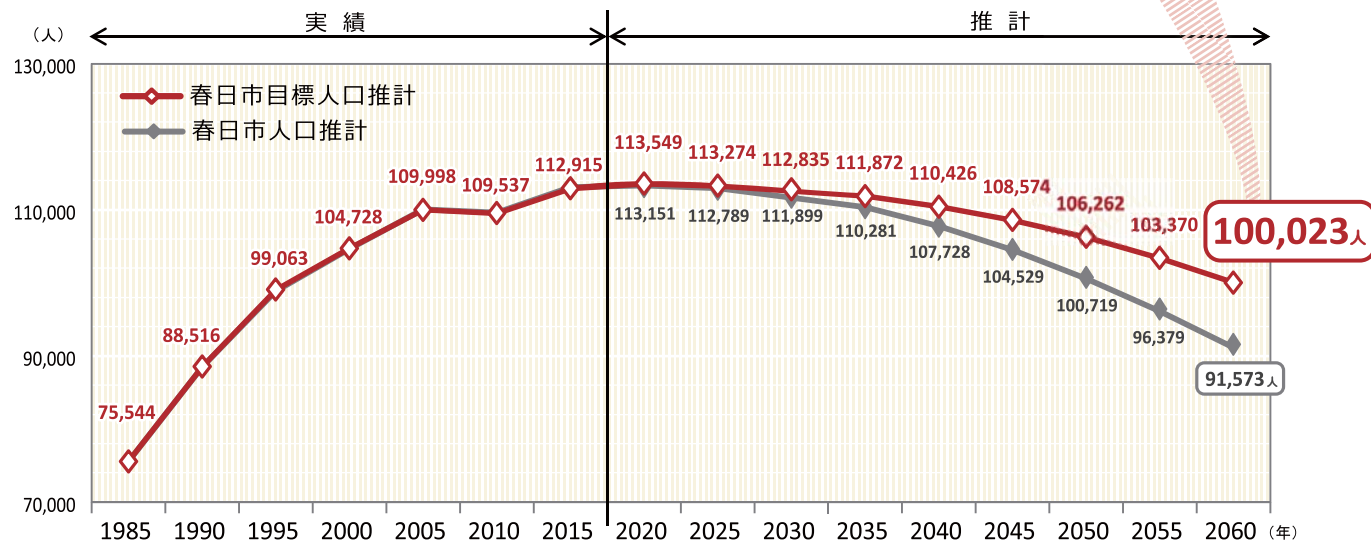
③ 人口の将来展望

春日市は、



2060年に人口10万人の維持を目指します

- <自然動態> 今後も子育てしたいと思える環境を充実させ、「出生率の上昇」を目標とします
- <社会動態> 良好な住・教育環境の維持・向上を図り、「転入・転出に伴う人口増の維持」を目標とします



第2期
春日市まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和2年3月

【編集・発行】春日市役所
〒816-8501 福岡県春日市原町3丁目1-5
TEL: 092-584-1111 FAX: 092-584-1145



「まち・ひと・しごと創生」とは、

出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目指す取組です。

春日市では、今後到来する人口減少社会に的確に対応し、将来にわたって活力のある地域社会を維持していくため、「第1期春日市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を2015（平成27）年に策定し、取組を推進してまいりました。2019（令和元）年度に第1期の計画期間の最終年度を迎え、今後も更なる施策の推進を図るため、国及び福岡県の動向、社会経済状況の変化、市民の新たなニーズ、本市の現状や課題等を踏まえ、2020（令和2）年3月に「第2期春日市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間：2020（令和2）～2024（令和6）年度）を策定しました。



人口ビジョンって？

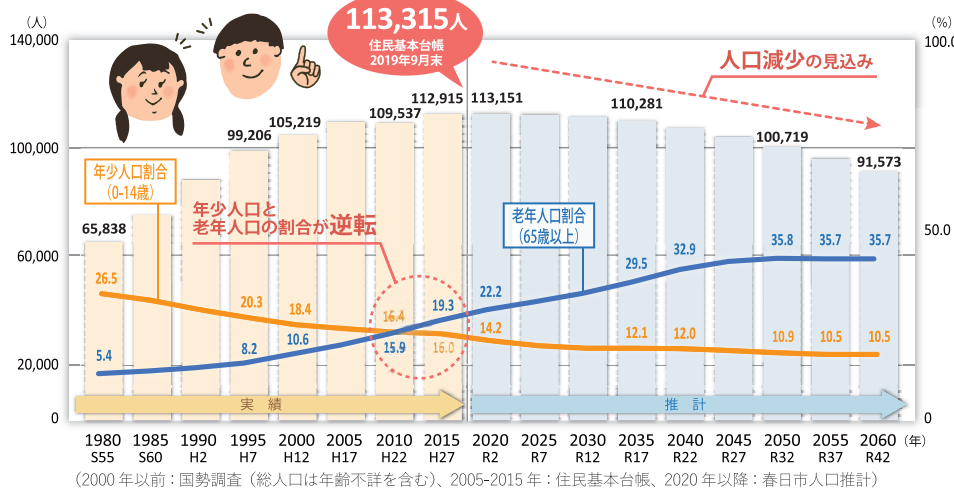
春日市における人口の現状を分析し、人口に関する市民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と将来展望を示したものです。



総合戦略って？

人口ビジョンを踏まえ、人口減少社会に的確に対応し、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくため、春日市における今後5か年の目標と施策をまとめたものです。

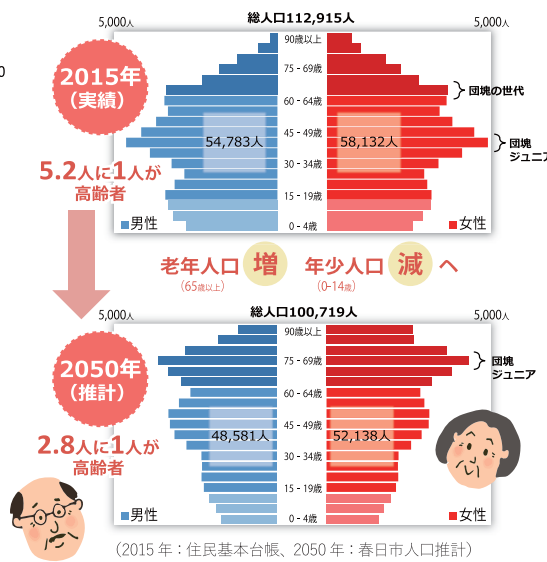
○ 人口の現状と今後の推計



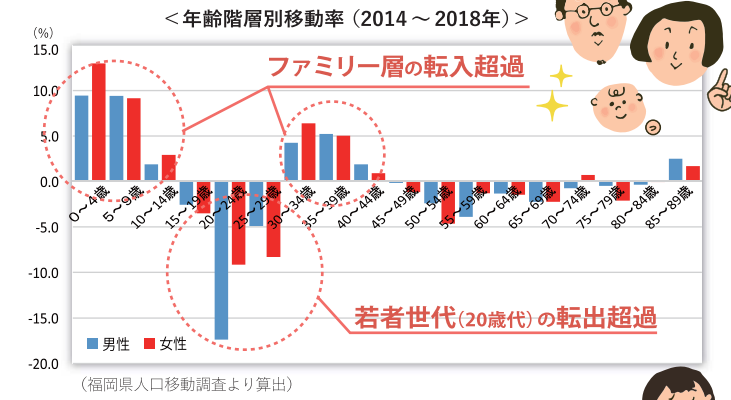
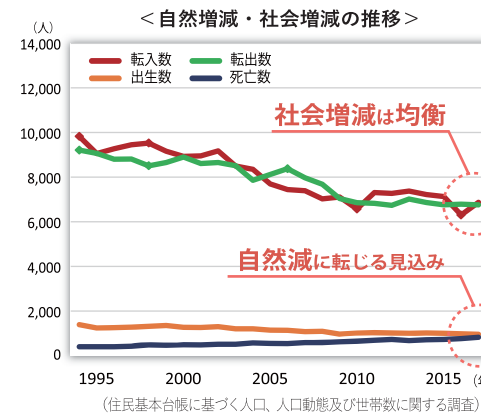
▶ 総人口の減少と少子高齢化の進行

春日市の人口は、これまで増加してきましたが、今後は減少する見込みとなっています。2011（平成23）年に年少人口（0-14歳）と老年人口（65歳以上）の割合は逆転し、今後は老年人口の割合が上昇し、少子化・超高齢化による人口構造の変化は避けることが出来ない状況です。

<年齢階層別人口ピラミッドの推移>



○ 人口増減の特徴



▶ ファミリー層の転入超過、若者世代(20歳代)の転出超過

社会増減（転入数と転出数の差による人口の増減）は、ほぼ均衡状態（転入数と転出数が同数となり、人口移動ゼロ）となっています。また、自然増減（出生数と死亡数の差による人口の増減）は、出生数は減少傾向、死亡数は増加傾向にあり、将来的に死亡数が出生数を上回り自然減となる兆候がうかがえます。

特徴としては、良好な住・教育環境を背景に、ファミリー層の転入が多いこと、進学や就職のために、若者世代（20歳代）の大都市圏への転出が多いことが挙げられます。

春日市 まち・ひと・しごとと創生 総合戦略 3つの基本目標

基本目標 1 若い世代の結婚から子育てまでの希望がかなうまちづくり



(目標の位置づけ)

- 一定の人口規模を維持するうえで出生数の増加が不可欠
- 経済的な負担など「子どもを持ちたい」という希望の阻害要因を可能な限り取り除く
- 若い世代が安心して結婚から子育てまでの希望が叶えられる環境の整備に取り組む

項目	現状値	目標値 (2024年)
理想と実際の子どもの数のギャップ	-0.50人 (2019年)	-0.49人以内
合計特殊出生率	1.45 (2019年、市統計)	1.48以上
春日市で子育てをしたい市民の割合	97.3% (2018年)	98.0%以上

指針① 子育て支援施策の充実

保育など子育て支援の質・量のニーズに対応した多様な子育て支援の充実、子育ての経済的負担軽減、支援を要する子どもや家庭への子育て支援

指針② 妊娠・出産支援

妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援、不妊に悩む夫婦への支援

指針③ 働き方改革と家族・家庭の役割等に関する普及啓発

仕事と生活の調和の実現、ライフデザイン構築のための情報提供等

基本目標 2 九州で最も住みやすい魅力あるまちづくり



(目標の位置づけ)

- 人口の集積は良好な住環境を形成し、人を呼び込む好循環を生み出す
- 一定の流入人口を確保するため、都市機能・住民サービスの充実に取り組み、魅力あるまちづくりを目指す

項目	現状値	目標値 (2024年)
住みやすいと感じる市民の割合	89.6% (2019年)	95.0%以上
住み続けたい市民の割合	87.8% (2019年)	92.0%以上
人口の社会増減	17人増 (2018年)	±0人以上を維持

指針① 商工業の振興 創業支援事業の推進 (創業インキュベーター事業)

指針② 交通機能など都市機能の充実

都市計画道路の整備、西鉄春日原駅周辺の環境整備、交通ネットワークの確保

指針③ 学校教育の充実

きめ細やかな指導・体制の確立、地域コーディネーター設置校の拡充、学校施設の整備

指針④ 安全・安心なまちづくり

地域防犯活動の強化、地域防災体制の整備

指針⑤ 生活環境の保全 空き地・空き家の対策

指針⑥ まちの魅力 PR シティプロモーション事業

指針⑦ 地域人材の育成、U・I・Jターンの促進

高校生のまちづくり活動への支援

基本目標 3 超高齢・人口減少社会に対応した持続可能なまちづくり



(目標の位置づけ)

- 高齢化など人口構造の変化は、社会保障制度の維持が困難となるなど様々な悪影響が懸念される
- これまで以上に協働のまちづくりを推進するとともに、効果的効率的な行財政運営に取り組む

項目	現状値	目標値 (2024年)
市民のまちづくり活動活発度	67.1% (2019年)	85.0%以上
地域の連帯感度	56.3% (2019年)	70.0%以上

指針① 市民主体のまちづくりの推進

自治会活動の充実・自治会加入の促進、地域活動の拠点整備

指針② 持続可能な社会保障制度の実現

介護予防の推進 (介護予防推進事業)、健康づくり活動の推進 (特定健診・特定保健指導の推進事業)

指針③ 都市の再構築

ファシリティマネジメントの推進 (公共施設等総合管理計画の推進)

指針④ 行財政改革の推進

財政の健全化の維持 (市債残高縮減と計画的基金積立)、圏域・広域行政の推進

